

【外国人の人権】

記号	番号	題名	内容	企画・発売元	時間(分)	制作年	VHS/DVD
G	1	在日コリアンの肖像 ～時代を生きる家族・7年の足跡	全育愛さんは、中学2年生から高校、大学そして就職を通して、本名で生きることを自らに問いかけてきた。この作品では、彼女の7年間の成長を見守りながら、在日コリアンの置かれた状況と、共生への道を切り開く「アプロの会」のメンバーの熱い情熱を描く。	メディア総合研究所／風楽創作事務所	45	1998	ビデオ
G	2	日本の国際化と人権 ～違いを認め合う地域社会を	1980年代以降の日本における外国人の急激な増加を背景に、教育現場や市民活動の現場での「共生」にむけた取り組みを紹介し、国際人権の立場からどう考えていくべきかを解説する。	(財)アジア・太平洋人権情報センター	25	1999	ビデオ
G	3	この街で暮りたい	国際化が進み多くの外国人が私たちの街で暮らすようになったが、言葉や宗教、文化、価値観などの違いから、様々な人権問題が生じている。入居拒否の例をもとに、日本に移り住むようになった外国人への偏見を描きながら、外国人の人権について考える。	法務省人権擁護局／(財)人権教育啓発推進センター	32	2003	ビデオ
G	4	いまじん ～多民族・多共生への道～	日本で生活する外国人が直面している困難や人権侵害を乗り越えようとする努力や取り組みを知る事により、日本社会が本当の「多民族・多文化共生社会」を実現するために、何が必要かを考える。 ※手引書付き	大阪市人権啓発推進協議会	24	2003	ビデオ
G	5	海女のリャンさん	戦前、済州島から日本に渡り、現在は大阪で一人暮らしのリャン・イーホン（梁義憲）さんの生活を記録した長編ドキュメンタリー映画。日本、韓国、北朝鮮に離散した子どもたちとの関係から、国家の対立がもたらす悲劇と家族の絆の尊さを伝える。	桜映画社	90	2004	DVD
G	6	企業と人権 第3弾「外国人労働者問題から多民族共生を考える」	従業員が2割が中国人という企業に密着取材。研修・技能実習制度を利用した人材の育成・確保の実態をドキュメントしながら、利潤追求をいうリアルな現実の中、どう人権問題と真剣に向き合ってきたのかを描く作品。さらに、労働者は生活者であるという視点から、その生の声や地域の支えにも触れる。	(株)フルーク	32	2007	DVD
G	7	ホームタウン 朴英美（パク・ヨンミ）のまち	在日外国人が学校や社会で経験するさまざまな葛藤を描きながら、看護師として前向きに生きようとする在日韓国人3世の姿を通して、名前や国籍の違いを認め合い、それぞれの生き方・考え方を大切にして相互に理解し合う必要性を伝える。	東映(株)	54	2007	DVD
G	8	外国人と人権 違いを認め、共に生きる	外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人が人を大切にする人権尊重の社会をつくりあげるために何ができるかを考えるものです。外国人に対する偏見や差別をなくし、皆が住みよい社会を築くために私たちにどのようなことが問われているのかを学びます。	東映(株)	33	2017	DVD
G	9	ウェルカム	日本で働く外国人が増えていることから、「外国人の人権」についてドラマ形式で掘り下げていくDVD。	東映(株)	16	2016	DVD
G	10	日本に暮らす新来外国人	日本で働く外国人は厳しい環境下にあることが多く「外国人の人権」について考えていくDVD。	東映(株)	20	2002	DVD
G	11	サラマット～あなたの言葉で	この作品の主人公・珠美は、新しく職場にきたフィリピン人のミランダに対し、様々な「違い」を「壁」と捉え、面倒な存在だと感じてしまいます。しかし、自分とは異なる文化や考え方を持つミランダとの対立や交流を通して、珠美は新たな視点に気づかされ、「違い」は様々な問題解決の糸口になることも学んでいきます。珠美とミランダの姿を通して外国人は「受け入れてあげる存在」でも「労働力」でもなく、助け合うことができる対等な仲間であること、SNSを傷つけるための道具としてではなく、人の心と心をつないでいくために利用する様子を描きます。	東映(株)	38	2019	DVD
G	12	アニメ 多様性の芽をはぐくむ ①人種・国籍	子どもたちが人種、国籍の違いから起こってしまうことがある無意識な思い込みや偏見、差別的な感情が自分自身の中にもあるかもしれない、そういった思考に気付くと共に、お互いを尊重できる感性を育むことをねらいとしています。	(株)サン・エデュケーションショナル	12	2024	DVD